

## 西表島生物観察旅行

阪口正樹

2002年8月3日午前8時45分、予定どおり伊丹空港に7人集合、晴れ。9時45分発JAL911便に搭乗。11時20分頃、那覇空港に到着、晴れ、気温30℃。昼食には沖縄御膳1380円。沖縄そば、ゴーヤチャンプル、豚の角煮、ごま豆腐、モズク酢、沖縄の名物をここで味わう。13時、岡山発の甘中先生らの7人と合流、計14人の旅行。13時35分那覇発JTA611便に搭乗。15時頃石垣空港到着、晴れ、雨の跡がある。車輪が着地するやいなや、逆噴射で急停機。タクシーで離島棧橋へ。初乗り390円乗車賃810円。タクシーの運転手によると、「急停機の理由は滑走路が1500メートルしかないこと。滑走路の延長は自然保護団体の反対で止まっているため」とのこと。そういえば白保の珊瑚礁を埋め立てる計画が世界中から叩かれたのは石垣島のこと。離島棧橋では荷物を残して市場へ散策。パイナップル1串(四分の一)100円。西表島上原まで片道2000円往復3800円。16時10分発。高速艇、白波を蹴立てて漁船よりも速い。16時50分到着。着岸直前から横なぐりの雨、港のすぐ前にお世話になる「うえはら館」。よかった、イヌとニワトリの出迎え。18時夕食。グルクン、刺身、ゴーヤチャンプルなど。甘中先生らは夕食前に近くの海岸散策、カイメン、オヒルギの花を採集。姫路グループは元気だ。白岩先生差し入れのビール券で買い出し。キリンビールの券だったが、キリンはなかったのでオリオンビールとなった。夜、10人ほど集まり反省会。来年は利尻島を観察したいとのこと。

8月4日6時頃、ニワトリの鳴き声で起床。7時、朝食。8時、レンタカー4台借りる。1台につき保険金1000円、ガソリン代を別に借り料7000円。台風12号の影響で横なぐりの雨がはっきりなく降り続く。午前4台まわって行動。船浦湾からピナイサーラの滝を眺め、シイラ川河口干潟のマングローブ、まいら川河口橋のたもとから降りて干潟へ、南風見田浜で観察。雨の中、古見のサキシマスオウの木群落とリュウキュウアナジャコの塚を観察。由布島行きの水牛乗り場見学、水溜まりに水牛が何頭も漬かっている。雨降り続く、昼食は宿舎の隣の食堂で。午後はそれぞれ別行動、西表島温泉、白浜のミモチシダ採集、浦内川遊覧船にグループ行動。土産売り場で星の砂と太陽の砂を求める。2種類の有孔虫をそのようにいっている。案内書によると星砂はバキュロジブシナ、太陽の砂はカルカリナと名が付いている。星砂の浜も大雨。陸からの雨水はコンクリートの階段を川の

ように流れるが、砂浜に吸い取られ海にまでは届かない。砂を見ると、星砂、太陽の砂、5mm以上もある貨幣石(?)などの有孔虫類、サンゴのかけら、貝のかけら、ウニのトゲや骨格、ゴカイの石灰質の棲管などが観察できる。近年にない大雨とのこと。田村さんがセマルハコガメ2頭保護、甲羅長11センチメートル、14センチメートル。18時40分、夕食。20時からイリオモテヤマネコの話は村田 行氏から聞いた。お礼を渡そうとしたが受け取っていただけず。

(そのメモ)27年前に西表島にやってきた。第1回の調査で今泉さんらは30頭の生息を推定した。第2回目の調査に参加した。生態調査から、低地、海岸近くの岩の上、道路そば、特に北岸道路に多いことから生息面積を算出し、またテレメトリー調査でなわばりが2~3平方キロメートルとわかったので、生息面積からなわばり面積を割ると生息頭数が100頭とでた。また、薄明薄暮に活動し、昼間にも活動する。22年前からの調査では35頭の交通事故死があったが、昨年には6、7頭もはねられた。車が多くなったのも一因だが、追い込み漁もしなくなり、忙しいが挨拶に代わり、島民の生活も都会並みに変わってきたことも一因だろう。また、道路を餌場として利用していることが大きい要因のようだ。イリオモテヤマネコは生態系の頂点に位置し、カニ、カエル、トカゲ、クイナ、オオコウモリ、昆虫、川エビなどを食べる。理由は不明だがネコと違って泳ぐことがある。冬に餌でおびき寄せて泳いでいる写真を撮り発表した。山にはオオヤマネコもいると言われている。リュウキュウイノシシのワナにもかかる。13年3ヶ月飼育した記録がある。人家のニワトリをすべて殺して、一羽だけ食べるので、住民の怒りを買う。22時就寝。

8月5日、住民基本台帳開始の日。6時50分起床、雨。7時30分朝食。9時出発。バナナハウスの森本孝房さんのお世話になる。船浦のマングローブ林に入り、キバウミニナ、シレナシジミ、ミナミトビハゼ、リュウキュウアナジャコ、ヒルギダマシ、ヤエヤマヒルギ、オヒルギ、ニッパヤシを、干潟でミナミコメツキガニを観察した。琉球大学の圃場を車中から見学。ボート乗り場で昼食。カヤックに二人あるいは一人で乗り、ピナイサーラの滝を目指す。アダンが間近に。サキシマスオウの木、クロツグ、ヒカゲヘゴ、シュウカイドウ、アカギ、ツルアダン、シメコロシの木を見ながらピナイサーラの滝壺に到着。パッションフルーツとパイナップルでリフレッシュ。滝の上から下へ吹き下ろす風でしぶきがかかり、カメラ

の前面がたちまち水滴に濡れる。アカギにシメコロシの木が絡まりはじめオオタニワタリが太い枝に何株も着生していた。来た道を引き返しカヤックに乗って出発点へ戻る。パイナップル畑へ立ち寄り、うへはら館へ帰館。18時40分夕食。20時よりB班はナイトツアー。

8月6日、広島原爆投下の日。7時10分起床、曇り。脚が張っている、少し痛い。7時30分朝食。今日は自由行動。ミスターサカナでファンダイビング。礁湖の中は船から見ると白と黒に見える。潜ってみて初めて分かったが、白は珊瑚の細かいかけらが堆積した平らな海底、黒は海底から突き出た生きている枝珊瑚。そこに魚やエビなど動物が集まっている。イソギンチャクとクマノミも。魚は色とりどりだがエビは無色透明でしかも小さい。慣れないと分からない。また大きい珊瑚の塊になると、まさに教科書で見るとような見事なものが見える。共生藻のために褐色になっている。スタッフによると、冬にはワレカラが海草に着くという。その他に体験ダイビング、シゲタ丸のシュノーケリングツアー、カヌーツアー、竹富島観光、ワイルドセンター見学、サイクリング。シュノーケリングツアーは天候が悪くしかも満員なので大変な目があったとか。そのなかでも大久保先生は初めてシュノーケリングを経験された。そのファイトはすごい。

夕食は18時30分。20時よりA班は森本さんのナイトツアー。ヤシガニ、キノボリトカゲ、カニ、ゴイサギ、アオバツク、ナナフシ、オカヤドカリ、ホタルの幼虫、カエル、オオウナギ、サキシマハブ、アオヘビ、ヤエヤマコウモリ。23時帰宅。荷物の整理、24時就寝。

8月7日6時40分起床。5人は先に宿舎をでて石垣島から竹富島へよって石垣島で合流。他は9時10分、上原発石垣島への帰途へ。石垣島では自由行動。市場で品物を見ると、値段は西表島の倍からしていたようだ。品物の善し悪しが分からないので比較は不十分だが。ヤギ汁は臭いがきつかった。石垣空港へのタクシーの中で、「今年は珍しい、雨ばかりで。毎年7月からお盆までは快晴が続くのに。石垣島と那覇では気候が違う」と。14時石垣空港発。那覇空港で解散式。伊丹と岡山へ。全員無事帰着。

一人当たりの費用：飛行機代（伊丹発73500円、岡山発72500円）、宿泊費28560円、レンタカー代2290円、ガソリン代398円、ガイド料9000円、雑費1012円 計伊丹発114760円、岡山発113760円

参加者：阪口正樹（団長）、清水洋、山田みゆき、大日向郁夫、大日向美那子、八田康弘、八田洋子（以上、伊丹発）、甘中照雄、宇那木隆、平石省三、山本一清、大久保正和、田村統、安尾恵子（以上、岡山発）。

計画の始めからすべてのことで甘中先生に大変お世話になりました。また、山本先生、田村先生にも現地でお手伝いいただきました。お礼を申し上げます。

帰宅後、西表島の珊瑚礁に茂る海草ウミショウブの小さい雄花が8月の大潮の干潮時13時に海面に浮き上がってくるとの報道があった。潮汐表によると2002年8月9日が月齢0.3日の大潮で、14：16に最低潮位となる。



西表島の生き物たち

A～E 船浦湾のマングローブ林で

A：オヒルギの茂る中をトレッキング。

B：キバウミニナが林内の落葉を食べる。

C：リュウキュウアナジャコの塚。

D：ニッパヤシこは数株あるが遺伝的には2個しかないという。

E：ニッパヤシの花、増殖が難しい。西表島は北限地。

F：ヤエヤマヒルギのマングローブ林。

G：セマルハコガメ。

H：青紫色のパイナップルの花が下部に見える。

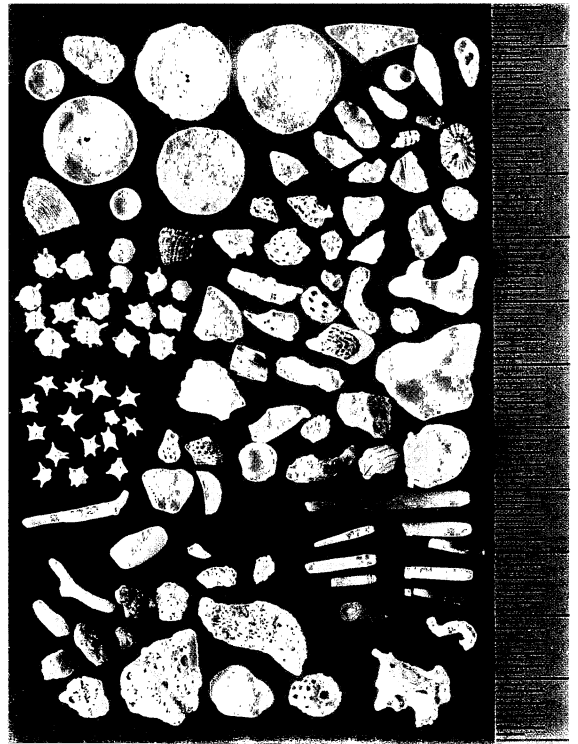
I：パイナップル畑。手前は色あせしないように実を新聞で包み、向こうでは株の上に寒冷紗をかけている。



船浦湾のマングローブ林

上：干潟に発達するマングローブ林の遠景。中央に水量を増した  
ピナイサーラの滝がみえる。

下：オヒルギのマングローブ林が発達している。



星砂の浜

星砂、太陽の砂だけでなく、サンゴのかけらや貝のかけら、  
ウニのトゲなどもみられる。最小目盛りは0.5mm。



船浦湾のヤエヤマヒルギと記念写真

前列左から、八田、安尾、阪口、大日向、山本、

後列左から、山田、八田、甘中、清水、宇那木、田村、大日向、大久保、平石の各氏と案内の森本さん。